

10月定例記者会見要旨

皆さんこんにちは。二十四節気の「霜降」も過ぎまして、朝晩の冷え込みに冬の足音を感じる季節になってまいりました。次の節季はもう「立冬」ということで、文字通り暦の上では冬の始まりとなります。

季節の変わり目は、体調を崩しやすい時でもございますので、市民の皆様・記者の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛いただきますよう、お願いいたします。

さて、超大型の台風21号が東海・関東を直撃いたしまして、これに伴い10月21日から23日にかけては、関西を中心に広い範囲で、道路の冠水・住宅の浸水やがけ崩れなどの被害が発生しました。

龍ヶ崎市においては、県内への大雨警報の発令に伴い、22日午前9時30分に警戒本部を設置しましたが、以降の雨量によって土砂災害の発生等が予想されたことから、明るいうちの避難を促すことを目的に、同日午後3時に災害対策本部を設置いたしました。続いて午後4時には、市内の土砂災害警戒区域を対象に「避難準備・高齢者等避難開始」を発令し、市内2か所の避難所を開設いたしました。その後、同区域を対象に午後5時に「避難勧告」を発令いたしました。

幸い、龍ヶ崎市内では大きな被害は発生せず、23日早朝には、台風本体の通過に伴い天候が好転したため、同日午前7時をもって「避難勧告」を解除したところです。

龍ヶ崎市は、県内で避難勧告を発令した唯一の自治体でございますが、甚大な被害が予想される今回の超大型台風のような自然災害では、避難勧告・避難指示発令の有無や時期が、直接市民の生命にかかわります。一方でこうした一旦避難勧告・避難指示が発令されれば、少なからず社会経済活動の停滞を招くこととなりますので、この判断は大変困難なものであります。

避難勧告は「空振りを恐れず早期に」が災害対応の基本ですので、あとあ

との批判は甘受する覚悟で、今回、避難勧告を発令したところでございます。

7万8千市民を預かる市長の宿命ではありますが、こうした災害に際しますと、改めて市長としてのその責任の重さを認識するとともに、何よりも尊重すべきもの、何に代えても守らなくてはならないものは、龍ヶ崎市に信託を寄せ、この地で日々生活を営んでいる市民の生命・財産であると、改めて心に刻んだところでございます。

今回の災害対応につきましては、22日の衆議院議員選挙と重なったこともあり、数日の間、市職員が文字通り不眠不休で事務に当たってくれました。改めてその真摯さと熱意に感謝したいと思います。また、記者の皆様におかれましても、昼夜を分かたぬ取材・報道、大変お疲れさまでした。

話は変わりますが、スポーツの秋に相応しい、晴れやかな話題でございます。9月末から10月半ばまで愛媛県で行われておりました第72回国民体育大会のライフル射撃・少年少女ビームピストルで、本市在住で龍ヶ崎第一高等学校3年生の高木薫さんが見事日本新記録で優勝を果たしました。大会新記録ながら準優勝だった昨年の雪辱を果たし、今年3月に行われた全国高校選抜大会に続いての高校2冠を達成しました。

来年、大学に進学予定の高木さんは、オリンピック競技にもなっておりますエアピストルに転向されるそうですが、すでにエアピストルの強化選手に決定しているとのことですので、エアピストルでも素晴らしい成績を残し、ぜひ3年後の東京オリンピックで活躍していただきたいと思います。

また、報道各社の皆様にはプレスリリースでお伝えし、取材いただいたところでございますが、龍ヶ崎ふるさと大使で流通経済大学職員のトライアスロン選手・田山寛豪(たやまひろかつ)さんが、10月15日、東京お台場で行われたトライアスロン日本選手権で二連覇し、自身の持つ最多優勝記録を11に更新しました。

4度のオリンピック出場を果たし、日本人として初めてワールドカップで

優勝するなど、長年にわたり日本のトライアスロン界をけん引してきた田山選手ですが、今大会で第一線を退かれるとのことで、非常に残念ではありますが、選手生活を有終の美で締めくくられたことは、市としても大変喜ばしく、名誉に感じているところでもございます。

昨日は、ご本人が市長室においでいただき、今大会の報告や今後の予定などをお話しいただいたところですが、長年“流通経済大学の”、そして、“龍ヶ崎市の”田山寛豪として活躍し、市民に希望と感動を与えていただいた功績により、特別功労賞を授与させていただきました。

今後は活動の主軸を後進の指導に移されるとのことですが、選手としてはもちろん、指導者としてもすでに定評のある田山さんですので、今後、日本トップレベルの、そして世界で活躍できる選手を育成してくれるものと、大いに期待をしております。

また、このほかにスポーツ分野ではありませんが、このほど茨城県産のきのこの消費拡大を図るため、県産きのこを利用して新しい料理を生み出すきのこ料理コンクールが開催され、県立竜ヶ崎二高2年生の市川水晶(みずき)さんの作品「鶏肉のきのこ入りチーズパン粉焼き～トマトソースがけ～」で最優秀の茨城県知事賞を獲得したという秋にふさわしいニュースも飛び込んできております。なお、市川さんの作品は、11月1日から30日の1か月間、水戸市のホテル・レイクビュー水戸のレストランで期間限定販売されるとのことですので、水戸に行く機会がございましたら、ぜひ皆様にもご賞味いただければと思います。

コンクールには自慢のきのこ料理80点の応募があり、第一次審査(書類審査)を通過した優秀作品11点について、8月25日(金)に水戸市の中川学園調理技術専門学校において第二次審査(調理実演)が行われ、各賞の受賞者が決定しました。

なお、10月下旬に開催する林業関係各種コンクール表彰式において表彰する予定です

それでは、ここから本日の情報提供に入りたいと思います。

初めに、災害時の対応を時系列にまとめた防災行動計画「マイ・タイムライン」の情報です。

このたび市では、「水防災意識社会再構築ビジョン」におけるソフト対策の目玉となる「マイ・タイムライン作成講座」を、市内浸水想定区域を対象に開催します。

平成27年9月の「関東・東北豪雨」をはじめ、近年は全国各地で大雨・台風による水害事故が発生しており、各自治体とも局地化、集中化、激甚化する大雨に危機感を募らせているところでもございます。こうした中、本市においては、小貝川が氾濫した際、浸水する恐れがある地域で「逃げ遅れゼロ」を確立することが課題となっております。

大雨による災害は地震と異なり、台風の進路や降雨の状況などから災害発生の予測が可能なことから、河川氾濫が発生する前に自分自身がとる行動を時系列的に整理した「マイ・タイムライン」を作成することが有効です。

今回の講座は、小貝川氾濫時の浸水想定区域の住民を対象に、実際に「マイ・タイムライン」作成してもらうことで、住民一人ひとりに大雨時の「自分の逃げ方」を確立してもらうことを目的に開催するものでございます。

続きまして、「龍ヶ崎市空き家等対策の連携協力に関する協定」についてです。

近年、人口減少や少子高齢化などの進行により、「空き家」が全国的に社会問題化しておりますが、本市もその例の洩れず、各地で所有者等の様々な事情から、適正な管理が行われていない空き家等が見受けられます。

本市では、このような状況に鑑み、平成27年度から平成28年度にかけ

まして『空家等実態調査』を実施し、市内全域の空き家等の件数及び分布状況、さらには空き家の所有者等の意向などを把握してまいりました。また、この調査結果を踏まえ、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づく『龍ヶ崎市空家等対策計画』を平成28年度に策定し、空き家等の予防対策・発生抑制、活用方策、適正管理、解体・除去、さらには跡地利用と、それぞれのステージごとに具体的な取組みを定めたところでございます。

この空き家等対策を計画的かつ効率的に進めるには、地域、事業者、行政などの連携が非常に重要であります。市ではこうした考えのもと、専門的な知見を有する「茨城司法書士会」及び「茨城県宅地建物取引業協会」と10月30日に「龍ヶ崎市空家等対策の連携協力に関する協定」を締結することとなりました。

同協定による相互の連携・協力により、空き家等の発生の未然防止や管理不全となった空き家等の改善が、より一層図られるものと期待しているところでございます。

続きまして「龍ヶ崎教育の日推進事業」についてでございます。

市では11月を教育月間、11月5日を教育の日として定め、市民一人ひとりの教育に対する関心と理解を深めることを目的に、学校、家庭及び地域社会の連携による教育に関する取組みを推進しております。

この取組みのひとつである中学校連携による「たつのこプロジェクト」を11月22日に開催いたします。

同プロジェクトは、3ケ年を1サイクルとして、市内6中学校で一つのテーマを共有しながら、各校が連携して取組みを進めるもので、今回のテーマは「つたえよう つながろう みんなの心 みんなの笑顔～ 撲滅！ いじめ・いたずら・いやがらせ 今わたしたちにできること～」となっております。

一昨年が1年目で「企画・試行」、昨年が2年目で「実践」、今年度は3

年目の「提言・発信」の年となります。会場は市役所5階の本会議場で、各学校で2年間取り組んできた内容についての発表を行った後、代表生徒が「いじめ撲滅」について決意表明をいたします。なお、当日は市公式ホームページでのインターネットライブ中継を予定しております。

最後になりますが、お手元にお配りさせていただいております、子育て応援マガジン『たつのこそだて』を10月20日に発行いたしました。

図書館の読み聞かせボランティアや小学生の登下校を見守るスクールサポーターなど、子育てを支える側の人に光をあてたほか、本市出身のプロフットボールライター野口啓代さん、Jリーグ柏レイソル所属のサッカー選手中山雄太さんのインタビューなどを盛り込んでおります。

雑誌のような感覚で読むことができる一冊となっておりますので、ぜひ多くの子育て世代の皆様にご覧いただきたいと思っております。

以上で、本日の情報提供を終了させていただきます。なお、詳細につきましては、このあと担当から説明させていただきます。